

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷四十第

行發日一月六年一十正大

論叢

不勞利得税を論ず 法學博士 小川郷太郎

基督教文明の發展概論 法學博士 財部 靜治

社會哲學に於ける主義的の二元論的思想 法學士 恒 藤 恭

經濟道と經濟術 法學士 作田 莊一

小作制と小作法 法學博士 河田 嗣郎

時論

我邦の地租を論ず 法學博士 神戶 正雄

說苑

ジョン・ロックの私有權論 經濟學士 岩城 忠一

功利主義と生産政策 經濟學士 堀 經 夫

雜錄

古川古松軒の著述に就て 經濟學士 黑 正 巖

『共產宣言』の英譯本について 法學博士 河 上 肇

附錄 本誌第十四卷總目錄

『共産宣言』の英譯本について

河 上 肇

マルクス及びエンゲルスの兩人によつて書かれた *Das kommunistische Manifest* の英譯本として従來廣く行はれてゐたものは、ムーアが譯して、それをエンゲルスが校訂し、更にエンゲルスが其れに序文（一八八八年一月三十日の日附）と註釋とを附して公にしたところの、*authorized translation* であるが、今日では、エイトケン及びブトゲンの共譯に成るものが、可なり廣く行はれてゐるかと思ふ。これは英國の *Socialist Labour Party* が企てた新譯で、それには一九〇九年九月の日附の譯者の序言がついてゐる。今その序言を見ると、『吾々は大英國の勞働者に「共産宣言」の新譯を提供する、それは吾々が以前の翻譯に改良を加へたと思ふからではなく、只以前の翻譯が私的の會社や個人の財産に屬してゐるからである』と言つてはあつたが、しかし又『この翻譯は精確である、さうして吾々

は、それが以前の英譯に比べて、原文に對し少くともよりリテラリーになつてゐると信する』とも言つてゐる。私のこの短文の目的は、此等二種の英譯を比較することにある。勿論各頁に亘つて仔細に行と行とを比較するのは、餘りに煩はしいことであり、又益のないことである。だから、私の比較は、よく引用されることのある有名な三四の文句に限られる。

宣言の第一節の始の方には、次の如き文句がある。

Unsere Epoche, die Epoche der Bourgeoisie, zeichnet sich jedoch dadurch aus, dass sie die Klassengesätze vereinfacht hat. Die ganze Gesellschaft spaltet sich mehr und mehr in zwei grosse feindliche Lager, in zwei grosse, einander direkt gegenüberstehende Klassen: Bourgeoisie und Proletariat.

それを舊譯には次のやうにしてゐる。

Our epoch, the epoch of the bourgeoisie, possesses, however, this distinctive feature; it has simplified the class antagonisms. Society as a whole is more and more splitting up into two great hostile camps, into two great classes directly facing each other. Bourgeois-

osie und Proletariat.

しかるに新譯では終りの文章が次のやうに變へられてゐる。

All society is more and more splitting up into two opposing camps, into two great hostile classes: the bourgeoisie and the proletariat.

Die ganze Gesellschaft が舊譯に Society as a whole をなつてゐたのを、新譯が all society を變へたのは、恐らく政體とは言ひにくからう。況んや in zwei grosse feindliche Lager の譯を just into two great hostile camps をいつたのを、great を脱して into two opposing camps とし、又原文の in zwei grosse, einander direkt gegenüberstehende Klassen は、元々 into two great classes directly facing each other をいつたつて、可なり原文に忠實になつてゐたのに、新譯でそれを改めて、簡單に into two great hostile classes をしたのなまは、新譯の譯者が、自分等の『翻譯は精確である、そして吾々はそれが以前の英譯に比べて、原文に對し少くともよりリテラリーになつてゐると信ずる』を述

べてゐるのを、幾分裏切つてゐるやうに思はれる。

しかし場所によつては、なるほど新譯の方が精確であり、よりリテラリーになつてゐる、と首肯される場合も多々ある。例へば宣言第一節の結語は

Mit der Entwicklung der grossen Industrie wird also unter den Füssen der Bourgeoisie die Grundlage selbst hinweggezogen, worauf sie produziert und die Produkte sich aneignet. Sie produziert vor allem ihren eigenen Totengräber. Der Untergang und der Sieg des Proletariats sind gleich unvermeidlich.

となつてゐるが、その翻譯は、舊譯の方では、可なり原文をくづしてあつて、即ち次のやうになつてゐる。

The development of Modern Industry, therefore, cuts from under its feet the very foundation on which the bourgeoisie produces a d appropriates products. *What the bourgeoisie therefore produces, above all, are its own grave-diggers. Its fall and the victory of the proletariat are equally inevitable.*

これでは原文の冒頭に Mit der Entwicklung……

とある其の *mit* が省略されて、文章の主語も變へられて居るが、それが新譯には

With the development of modern industry, therefore, the very ground whereby it has established its system of production and appropriation is cut from under the feet of the bourgeoisie.

となつてゐて、この方がずつと原文に近づいてゐる。又原文に *Sie produziert vor allem ihren eigenen Totengräber* とある所は、新譯ではその *キムに* *It produces, above all, its own grave-diggers* となつてゐるのに舊譯では大分形が變つてゐる。

又宣言第二節の中程で、思想と物質的條件との關係が述べてある所に、原文では

ein Wille, dessen Inhalt gegeben ist in den materiellen Lebensbedingungen einer Klasse.

といふ文句がある。ところが舊譯では其れが *a will, whose essential character and direction are determined by the material conditions of existence of your class.*

となつて居り、殊に『物質的』が『經濟的』と改め

られて居るが、新譯では

a will whose character is determined by the material conditions of existence of your class.

とされて居り、遂に原文に忠實となつてゐるやうである。

宣言の第二節は屢々引用せられるやうに、有名な次の句で結ばれてゐる。

『發展の進行につれて、階級の區別は消え去り、總ての生産は團結せる個人の手に集中され、かくて公の權力は其の政治的性質を失ふ……無産者は有産者に對する鬭争に於て、必然的に階級に結合し、革命によつて自ら支配階級となり、支配階級として強力的に古き生産關係を廢止すると雖も、彼等は此の生産關係の廢止と共に、又階級對立の存立條件、階級一般を廢止し、從て又、階級としての彼れ自身の支配を廢止する。舊來の有産者社會と之に伴ふところの階級及び階級對立の代りに、其處では各人の自由なる發展が萬人の自由なる發展のための條件であるところ

の、一の自由團結が生れる。』

右の文章のうち、私が假に『團結せる個人の手に』を譯出したのは、原文に in den Händen der assoziirten Individuen をあつて、可なり譯しにくい文字であるが、それは舊譯には in the hands of a vast association of the whole nation を意譯してある。しかるに新譯では簡單に原文の *men in the hands of associated individuals* をしてある。どちらが可いか私には解らないが、兎も角さういふ違ひがある。又最後の所は原文には An die Stelle der alten bürgerlichen Gesellschaft.....tritt eine Assoziation, worin.....をなしてゐるのだが、それが舊譯には In place of the old bourgeois societywe shall have an association, in which.....をなしてゐるのに、新譯には In the place of the old bourgeois society.....an association appears in whichをなす風になつてゐて、總じて原文に近いを謂ひ得られやう。

なほ宣言の最後の結句 Proletarier aller Länd-

er, vereinigt euch! は、種々の機會に最も多く引用される句である。それは舊譯に *Working men of all countries unite!* としてあつたのを、新譯では *Workers of all lands, unite!* としてゐるが、何故新舊の兩譯とも原文に無産者であるのを、そのまゝ proletarians とせず、特に working men 又は workers としたのであらうか？之を要するに、新譯も決して完全なものではなく、場所によつては却て舊譯の方が可いと思はれる部分がないでもないが、しかし大體に於て新譯の方が、より原文に近いを言つて差支あるまい。